

令和2年度 長野県下伊那農業高等学校 学校評価表(年度末評価)

学校教育目標		中 ・ 長 期 的 目 標			
一 質実・剛健 一 誠実・堪能 一 積極・真摯	1 農業や関連産業の持続可能な発展及び地域社会・文化の担い手として貢献できる人材を育成する。 2 農業の持つ教育力を最大限に活用し、知・徳・体の調和のとれた人格を形成する。				
	重 点 目 標		評 価（記述）		評価
	1 地域とともに歩む学校づくり （教育全体）		今年度も就職者の約95%が地元就職するなど、地域に根ざし、地域の農業・産業を担う社会人を育成する本校の使命・伝統を踏まえた教育活動を実践することができた。コロナ禍により、例年より地域に出て行って学ぶ、地域の方に来ていただいて学ぶことは減少したが、できる範囲で工夫しながら地域連携活動を実施した。また多数のメディアに取り上げられ情報発信もできた。今後も、状況を見ながら、更に活動を深めていきたい。 また、アンケートでは、生徒の87%、保護者の90%が、生徒(子ども)は学校生活が楽しいと回答している。この割合を更に増やせるよう、努めたい。		A
	2 学校生活を支える環境づくり （生徒指導）		安全で安心な環境で生徒たちが存分に力を発揮できるように、圃場整備、校舎内外の整備をすすめている。また本校独自の週番活動や生徒・職員の全員でおこなう清掃等により、整った環境づくりに努めている。いじめや暴力、非違行為のない学校生活が送れるように全職員が意識を高め働きかけもおこなっている。引続き教育相談や特別支援にも配慮し、必要に応じてSCなど外部との連携を図りながら、心の支援も含め、学校生活を支える環境づくりを充実させていきたい。		B
	3 自己指導能力を高める心づくり （生徒指導）		日常の生徒指導や学習指導をとおして、基本的生活習慣の確立に努め、規範意識や人権意識を醸成している。また、コロナ禍により様々な地域連携活動が減ったが、農場実習や生徒会・クラブ活動等を通して、社会性や人間性を育成している。生徒及び保護者へのアンケートからは、本校で成長できたと感じている生徒が約90%、本校へ子どもが入学して良かったと感じている保護者が約93%となった。今後とも自制心や自律心、自己肯定感や自己効力感を育み、自立できるよう心の成長を促したい。		B
	4 新たな学びに転換する授業づくり （学習指導）		奇しくもコロナ禍により、ICT機器の整備が進んだこともあり、ICT機器を授業に積極的に使用する教員も増え、生徒にとってより分かりやすい授業、主体的に学ぶ授業への転換を更に進めている。また、個人的に研究・研修を進めるだけでなく、授業公開週間を設け、互いに授業参観を行ったり、ICTを利用した授業やオンライン授業の職員研修も行ったりし、授業改善に努めた。生徒の授業満足度は92%に達しているが、今後もさらに「新たな学び」に対応した授業への転換を促進させたい。		A
5 夢に挑戦する人づくり （進路指導・キャリア教育）		コロナ禍で、思うように進路指導が進められない一年であったが、多くの3年生は、それまでの活動の蓄積を生かして進路実現につなげることができた。1・2年生についても、工夫をしながら、段階的に職業観や勤労観の醸成を進めてきたが、農業高校の強みを生かした活動が制限されてしまった影響が懸念される。生徒アンケートでは「学校は進路情報をよく知らせ、進路指導をしてくれる」が約80%、保護者は「学校は進路指導に力を入れている」が約84%であった。今後も、できる限りのキャリア教育を推進したい。			B

<A:達成できた B:概ね達成できた C:不十分であった>

令和2年度 長野県下伊那農業高等学校 学校評価表 最終まとめ

評価項目	評価の観点	評価
農業教育を充実させるための取り組み	・農業の必要性や素晴らしさを生徒に伝えることができたか。 ・「グローバル・アグリハイスchool宣言」や「長野県における新たな農業教育の方向性について（提言）」を実現するために、新たな教育実践ができたか。	・コロナ禍や未曾有の自然災害により、農業も多大な被害を受けたが、その状況の中で人間の生命活動を支える産業としての農業が重要であることを再認識させることができた。 ・世界共通の持続可能な開発目標であるSDG sを意識した授業を展開することで、持続可能な農業を促進するためには何が必要か考えるきっかけをつくることができた。
資格取得を充実させるための取り組み	・生徒が資格取得に興味関心を示し、生徒一人ひとりが二種類以上の資格取得に取り組むことができるように指導することができたか。 ・講習会や補習を充実させ、合格率8割を目指すと共に、生徒にとって満足いく成果が得られたか。	・7月頃までに予定されていた資格試験が新型コロナウイルスの影響のため中止や延期になってしまい、例年に比べると資格取得のチャンスが減ってしまった。しかし、9月以降については感染対策をして、多くの生徒が資格試験に挑戦することができた。今後も、感染対策を徹底した上で、生徒が積極的に資格試験に挑戦できる環境づくりや指導を継続していく必要がある。 ・合格率は資格により異なるが、8割を超える合格率の資格もあり、資格取得に意欲的に挑戦する生徒の姿が見られた。また、難易度の高い資格の1つである毒物劇物取扱責任者試験では講習会や補習を計画的に行い、6割の合格率を達成することができた。
学習意欲を向上させるための取り組み	・生徒の学習意欲を向上させるため、校外実習や外部講師による授業を行ったり、ICT機器等を利用したりするなど、授業内容を工夫し実践することができたか。 ・生徒にとって分かりやすい授業を実践することができたか。 ・また、理解できない生徒に対して事後指導がしっかりできたか。	・奇しくもコロナ禍により、ICT機器の整備が進み、それを利用することで、授業が効率よくできるようになった。また、新型コロナウイルス感染症拡大が落ち着いた時期には、例年より少ないながら、外部講師による授業も実施できた。なお、校外学習については、感染症により、行うことができなかった。 ・「授業評価」の評価結果を踏まえ、独自の教材を作成し、ICT機器を活用するなどわかりやすい授業を目指した取り組みが行われている。また、動画を利用したオンライン授業を各教科で行うことができた。 ・検定前の補習に加え、三者懇談会中に補習を行ったり、朝や放課後に個別指導を行ったりした。
進路希望を実現させるための取り組み	・生徒の実態に合った計画的指導ができたか。 ・進路が多様化する生徒に対し情報提供が十分かつ的確にできたか。 ・進路実現のための学習指導や補習が十分できたか。 ・生徒が希望する進路を実現することができたか。	・コロナ禍により、多くの進路活動が制限され、計画変更を余儀なくされたが、情報交換しながら臨機応変に対応し、指導できた。 ・『進路アクセス（進路の手引き）』・進路講話・進路だより・保護者向け資料等を通して、その都度情報提供することができた。 ・一方で、1・2年生のガイダンスはリモートでの実施が増え、様々な実体験ができなかったこと等の影響が今後懸念される。 ・3年の小論文・面接指導については担当者を決め、学科試験・各種検定試験については各学科・個別に指導を行うことができた。 ・コロナ禍で、希望していた進路を変更せざるを得なかった生徒が例年より多くみられたが、それぞれ自分が納得できる方向を見出し、進路実現をすることができた。 ・国公立大学に3名合格することができたが、いずれも1・2年次からの本人のたゆまぬ努力と戦略的な個別指導の成果である。
地域を理解し、地域との連携を深めるための取り組み	・生徒が意欲的に参加し、活動した取り組みであったか。 ・地域の文化を取り入れた内容の活動を行い、地域文化を理解させることができたか。 ・実施した取り組みが、相手や地域の理解と評価を得られたか。	・コロナ感染症対策で活動が制限されることが多く、昨年度より地域での活動は大幅に減少した。しかし、その中でもできることを生徒自身に考えさせることができ、飯田市と連携した「シトラスリボンプロジェクト」（コロナ禍によってうまれた偏見や差別を防止する取り組み）に参加し、情報発信をすることができた。
基本的生活習慣を確立するための取り組み	・「身だしなみ」をきちんとする指導の実践ができたか。 ・問題行動を未然に防ぐ予防的指導ができたか。 ・集会の開始迅速に集合・整列し、整然とした集会を実施することができたか。 ・気持ちよい挨拶を習慣づけることができたか。 ・校内外の清掃活動を通して、ゴミの分別を徹底させ、リサイクルの必要性について認識させることができたか。 ・時間のけじめをつけさせ、休み時間の有効活用によるスムーズな授業開始や遅刻をなくす指導ができたか。 ・いじめを許さない学校作りを進め、生徒が登る小さなサインを見逃すことのない指導ができたか。	・基本的に学校生活においては制服着用であり高校生らしい服装や身だしなみに心がけることを指導できた。 ・スマホなどのインスタグラムなど目に見えない問題などに対する指導に困難さを感じた。 ・コロナの関係もあり集団での講義や講習会等が自粛されたため、多くに生徒が一堂に会する機会が少なかった。各教室でリモートにより行った始業式や終業式、行事等は、整然と行うことができた。 ・校内の美化については、美化委員会を中心に分別の徹底・ごみ処理等美化活動を続けてきた。資源ごみ等の分別・リサイクルは徹底できたと思われるが、コロナ対策で教室内の密を避けるためにゴミ箱を廊下においたこともあり、廊下等校舎内の美化については不十分なところが見られた。今後も清掃美化活動を徹底していきたい。 ・遅刻や早退する生徒は一時より改善されたが、体調不良により欠席者が多かった。 ・年度当初の生活習慣などの指導が遅れたためか挨拶等の礼儀指導やマナーが確立しなかった。 ・いじめを許さないとする職員の意識や生徒への意識付けはできていると思われるが、初期段階で対応できるよう、事前に察知するなどの判断や日常観察が必要と思われる。
課外活動を充実させるための取り組み	・多くの生徒が課外活動に積極的に参加し、活動することができたか。 ・個々の生徒が目標とする成果をあげることができたか。	・今年はコロナ禍のため3年生の班活動は自粛が多く、南信大会も実施されなかった。野球は夏の甲子園県大会の代替大会が行われ県ベスト8になった。1・2年生は新人戦から参加でき生徒は熱心に活動した。農業クラブも県大会は実施されずプロジェクト発表や意見発表に代わるコンクールでは、研究論文部門では食品科学班、作文部門では最優秀賞を受賞した。また、長野県国際教育研究協議会主催英語弁論大会で最優秀賞と優秀賞を受賞した。アグリ研究班畜産部は信州黄金シャモプロジェクトで地域のラーメン屋と共同開発、アグリ研究班地域交流部は焼き肉ビビンバー、味噌利用のレシピなど企業と共同開発した。農業機械班は飯田市のムトス助成事業でドローンによる空撮や作物診断試験を行った。コロナ禍のなかでも工夫し活動が出来た。大勢の生徒がさらに積極的に参加することが望ましい。
安全教育を推進するための取り組み	・安全教育に対する研修の機会を設け、それに参加することができたか。 ・あらゆる場面で、生徒の安全を意識した教育活動を実践することができたか。	・年度当初より毎月のように通学途中で自転車事故が目立った。登下校の安全面やマナーについての指導や講習会などの設定やホームルームなどでの呼びかけの必要性を感じた。

令和2年度 生徒アンケートまとめ(1年生)

67下伊那農業高等学校

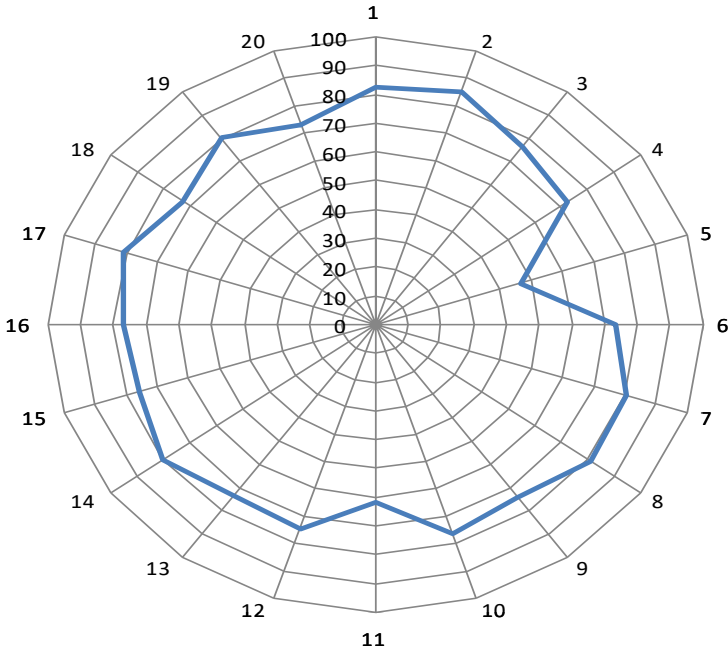
以下の質問にA～Dの4段階で評価し、該当する箇所に○印をしてください。

A:あてはまる B:だいたいあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない

R2.12月実施

No.	質 問 項 目	A	B	C	D	指標
1	学校生活は全般に楽しい	62	66	17	5	80.8
2	下農で成長でき、入学して良かった	60	75	14	2	82.0
3	自分の興味関心や進路選択に対応した、選択科目がある	48	74	25	3	77.8
4	年間授業計画について説明されている	27	62	53	8	68.0
5	予習・復習など、家庭学習をしている	6	35	71	37	51.7
6	授業は分かりやすく充実したものが多い	14	82	42	9	67.2
7	専門科目の授業が楽しい	46	78	23	4	77.5
8	目標とする資格や検定に合格できた	49	68	23	9	76.3
9	服装・挨拶・マナーなど、学校生活の指導が十分なされている	51	71	24	4	78.2
10	学校の規則など、生徒指導の方針や内容を理解している	45	80	19	4	78.0
11	校舎内の清掃・美化がゆきとどいている	17	74	40	15	65.9
12	先生は、自分たちの悩みや相談に親身になって対応してくれる	35	76	29	8	73.3
13	いじめを許さない学校づくりが進められている	35	64	41	5	72.2
14	学校行事(稲丘祭・球技大会など)が充実している	72	55	15	6	82.6
15	校友会活動が活発で、関心が持てる	49	70	25	5	77.3
16	クラブ活動が活発で、充実している	60	58	18	13	77.7
17	学校は進路情報をよく知らせ、進路や指導をしてくれる	33	82	29	3	74.7
18	配布物を、保護者に見せている	48	47	40	10	72.9
19	新型コロナウイルス感染症による臨時休校中の対応は適切であった	74	57	15	2	84.3
20	新型コロナウイルス感染症対策は適切に行われている	46	67	26	7	76.0

指標70未満は黄色表示



回答数	a人	b人	c人	d人
人数	a+b+c+d=n			

令和2年度 生徒アンケートまとめ(2年生)

67下伊那農業高等学校

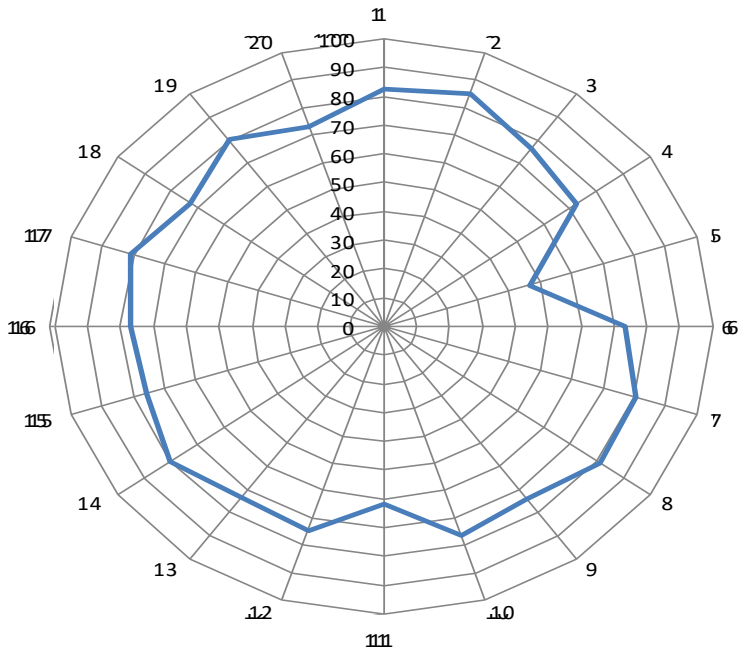
以下の質問にA～Dの4段階で評価し、該当する箇所に○印をしてください。

A:あてはまる B:だいたいあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない

R2.12月実施

No.	質 問 項 目	A	B	C	D	指標
1	学校生活は全般に楽しい	65	44	13	3	84.2
2	下農で成長でき、入学して良かった	58	56	9	2	84.0
3	自分の興味関心や進路選択に対応した、選択科目がある	38	55	24	8	74.6
4	年間授業計画について説明されている	31	57	27	7	73.0
5	予習・復習など、家庭学習をしている	6	23	57	39	49.2
6	授業は分かりやすく充実したものが多い	13	80	26	5	70.4
7	専門科目の授業が楽しい	48	52	19	4	79.3
8	目標とする資格や検定に合格できた	39	59	21	6	76.2
9	服装・挨拶・マナーなど、学校生活の指導が十分なされている	34	65	16	10	74.6
10	学校の規則など、生徒指導の方針や内容を理解している	29	71	20	5	74.8
11	校舎内の清掃・美化がゆきとどいている	8	49	52	16	59.8
12	先生は、自分たちの悩みや相談に親身になって対応してくれる	30	67	21	7	74.0
13	いじめを許さない学校づくりが進められている	27	68	23	7	73.0
14	学校行事(稲丘祭・球技大会など)が充実している	47	58	17	3	79.8
15	校友会活動が活発で、関心が持てる	29	67	21	8	73.4
16	クラブ活動が活発で、充実している	38	53	23	11	73.6
17	学校は進路情報をよく知らせ、進路や指導をしてくれる	33	63	21	8	74.2
18	配布物を、保護者に見せている	43	57	19	6	77.4
19	新型コロナウイルス感染症による臨時休校中の対応は適切であった	52	52	14	7	79.8
20	新型コロナウイルス感染症対策は適切に行われている	30	62	22	10	72.6

指標70未満は黄色表示



回答数	a人	b人	c人	d人
人数	a+b+c+d=n			

令和2年度 生徒アンケートまとめ(3年生)

67下伊那農業高等学校

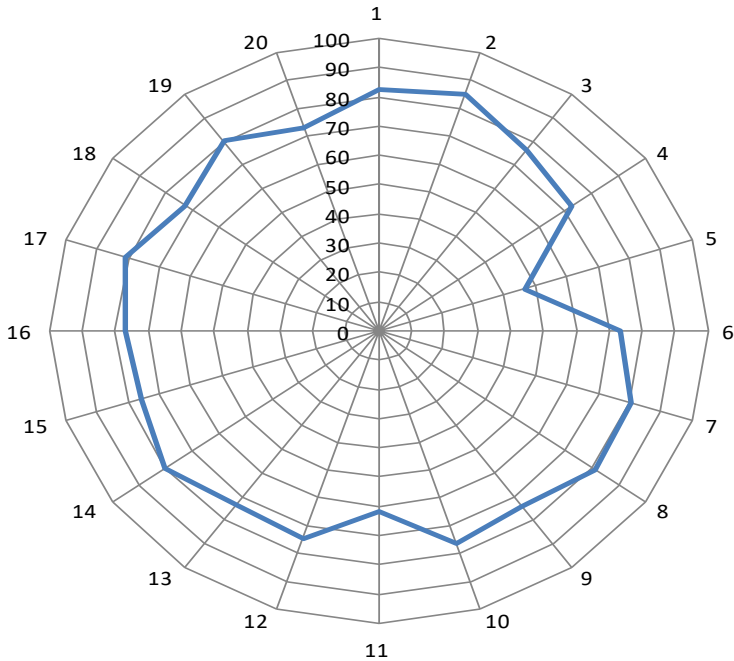
以下の質問にA～Dの4段階で評価し、該当する箇所には○印をしてください。

A:あてはまる B:だいたいあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない

R2.12月実施

No.	質 問 項 目	A	B	C	D	指標
1	学校生活は全般に楽しい	63	61	13	4	82.4
2	下農で成長でき、入学して良かった	74	53	11	3	85.1
3	自分の興味関心や進路選択に対応した、選択科目がある	47	64	23	8	76.4
4	年間授業計画について説明されている	32	67	36	6	72.2
5	予習・復習など、家庭学習をしている	10	18	57	57	46.7
6	授業は分かりやすく充実したものが多い	28	80	31	3	73.4
7	専門科目の授業が楽しい	59	58	20	4	80.5
8	目標とする資格や検定に合格できた	62	56	21	3	81.2
9	服装・挨拶・マナーなど、学校生活の指導が十分なされている	33	75	30	4	74.1
10	学校の規則など、生徒指導の方針や内容を理解している	37	79	23	3	76.4
11	校舎内の清掃・美化がゆきとどいている	17	54	49	21	61.9
12	先生は、自分たちの悩みや相談に親身になって対応してくれる	40	66	28	7	74.6
13	いじめを許さない学校づくりが進められている	31	76	25	7	73.6
14	学校行事(稲丘祭・球技大会など)が充実している	64	48	20	7	80.4
15	校友会活動が活発で、関心が持てる	42	68	26	6	75.7
16	クラブ活動が活発で、充実している	45	68	25	4	77.1
17	学校は進路情報をよく知らせ、進路や指導をしてくれる	59	59	21	2	81.0
18	配布物を、保護者に見せている	41	55	37	9	72.5
19	新型コロナ感染症による臨時休校中の対応は適切であった	55	63	22	2	80.1
20	新型コロナ感染症対策は適切に行われている	33	74	24	10	73.0

指標70未満は黄色表示



回答数	a人	b人	c人	d人
人数	a+b+c+d=n			

令和2年度 生徒による授業評価結果まとめ

授業評価については、今後の授業改善に役立てることを目的に、1学期（7月）と2学期（12月）に全校生徒を対象にすべての授業に対して評価を実施した。

1 授業評価について

自己評価も含め、以下の3つの質問について5段階で評価

(1) 質問事項

質問1 自分は授業中に集中して先生の話聞き、学習に取り組んでいますか？

質問2 授業の進度や難易度は、自分にとって適切ですか？

質問3 先生は興味・関心を高め、わかりやすい授業をしていますか？

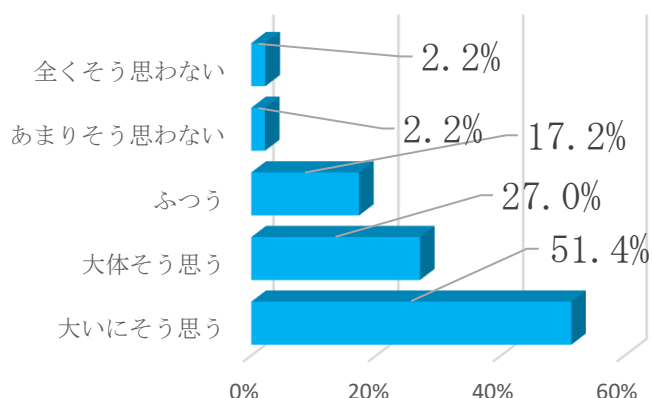
(2) 評価基準

- ①大いにそう思う ②だいたいそう思う ③ふつう ④あまりそう思わない
⑤まったくそう思わない

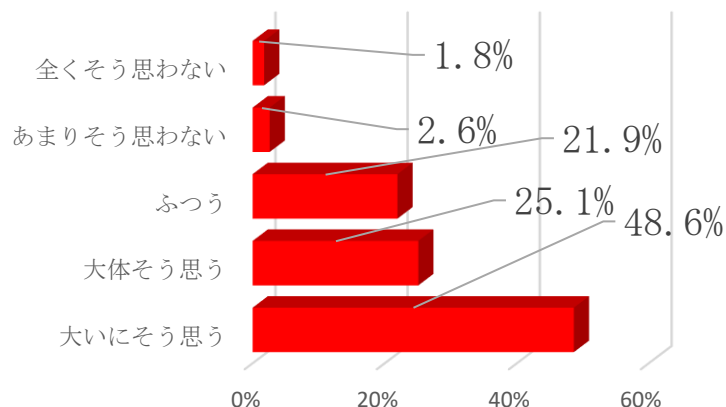
2 評価結果について

- (1) 質問1の「生徒自身の授業態度」については、「ふつう」以上と回答したのは1学期 95.6%、2学期 95.6%、改善が必要と回答した生徒は4.4%と全ての質問において全く同じ数値だった。

自分は授業中集中して先生の話聞き
学習に取り組んでいますか？

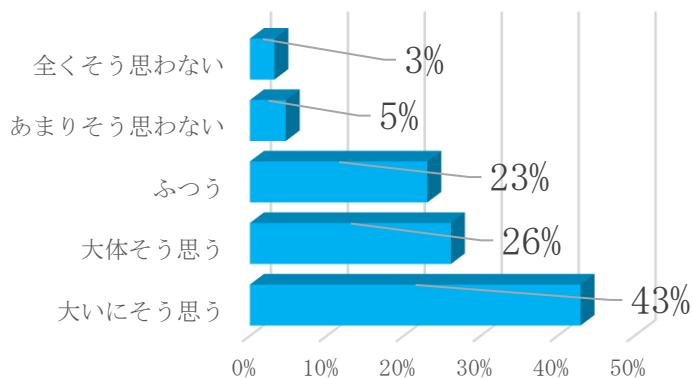


自分は授業中集中して先生の話聞き
学習に取り組んでいますか？

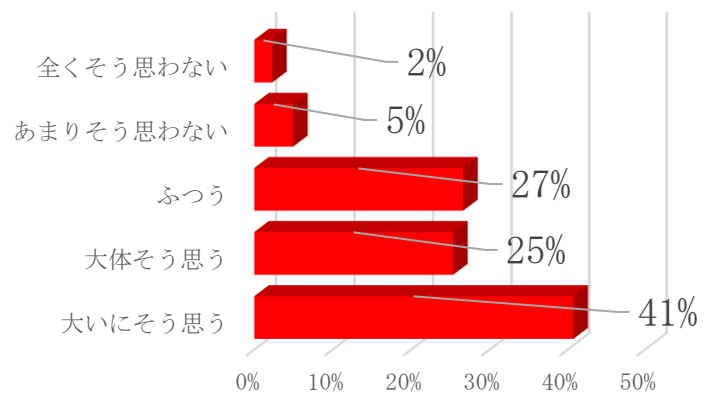


(2) 質問2の「授業の進度や難易度」については、「ふつう」以上と回答したのは1学期92%、2学期93%で、改善が必要と回答した生徒は1%減少した。2学期は若干の生徒の満足度が上昇していることが分かった。

授業の進度や難易度は自分にとって適切ですか？

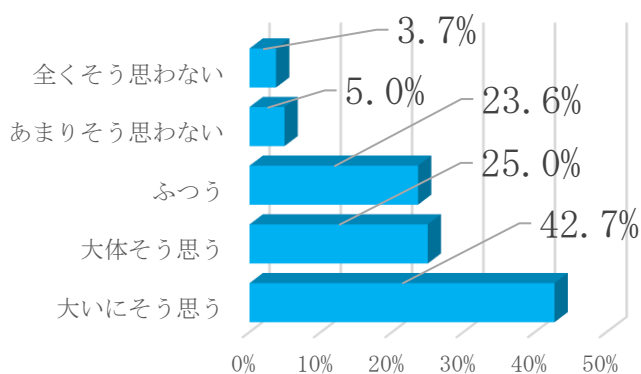


授業の進度や難易度は自分にとって適切ですか？

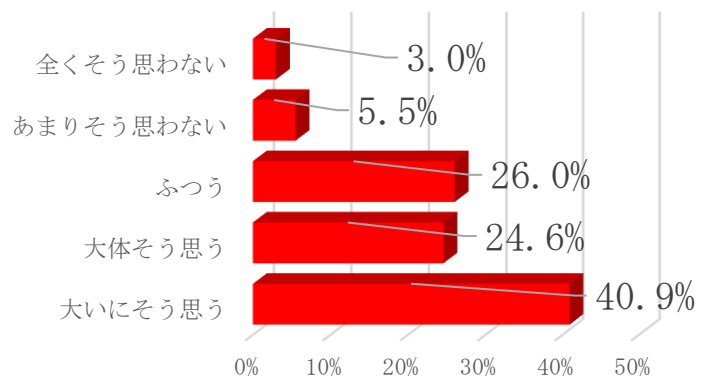


(3) 質問3の「わかりやすい授業か」については、「ふつう」以上と回答したのは1学期 91.3%、2学期 91.5%で、改善が必要と回答した生徒は0.2%減少した。

先生は興味関心を高め分かりやすい授業をしていますか？



先生は興味関心を高め分かりやすい授業をしていますか？



3 今後について

今年度は、新型コロナウイルス感染症による臨時休業の影響で学校が6月から再開されたため、授業進度が例年に比べると早くなったにも関わらず、生徒達の満足度は若干ではあるが上昇している。ICT機器を導入して3年目になるが、このような状況下でも視覚に訴える授業は生徒達の理解度を高めるために、有効であることが分かる。また、ICT機器を活用する職員側の努力も大いに影響していると考えられる。さらに、本校では、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を取り入れており、今後も継続的に実施していくことが生徒達に真の学力を身に付けさせるためにも重要だと考えられる。

令和２年度 学校関係者による学校評価のまとめ

５：そう思う ４：どちらかというと思う ３：どちらとも言えない・わからない

２：どちらかというとは思わない １：そうは思わない

項目	内 容	評 価				
		５	４	３	２	１
１	全ての教科において、分かりやすい授業を実践するとともに、食料・環境・食育等に関する農業学習を通して、学習意欲の向上に努め、生徒の可能性を広げる教育を実践している。	53%	39%	8%		
２	専門性を生かした生徒の進路実現に向け、キャリア教育に対する積極的な取り組みを行っている。	57%	36%	7%		
３	地域連携、地域貢献、地域文化の継承等に積極的に取り組み、地域から信頼される開かれた学校づくりに努めている。	64%	21%	15%		
４	生徒の問題行動・いじめ等の未然防止に努めるとともに、基本的生活習慣を確立するため、規律ある生活態度の育成、身だしなみ指導等に努めている。	32%	46%	22%		
５	資格取得や各種研修に積極的に取り組んでいる。	82%	14%	4%		
６	班活動等の課外活動に積極的に取り組んでいる。	32%	53%	15%		
７	交通安全教室等、生徒に対する安全教育を重視した教育を実践している。	18%	50%	25%	7%	
８	海外研修の実践等、生徒の国際的な視野を広めるため、国際理解教育やグローバル教育に積極的に取り組んでいる。	25%	32%	39%	4%	
９	学校評議員制度やＰＴＡ活動等を有効に活用し、地域社会及び保護者の意見や要望を日常の教育改善に生かそうと努めている。	39%	36%	21%	4%	

＜意見等＞

- コロナ禍の中、行事の中止や内容の変更があり大変だったと思いますが、生徒達が主体的に考え、工夫することができ充実した１年だったと思います。
- コロナ禍の教育はとても難しいと思います。そのような中でも、子供達が楽しい高校生活を送れたことは素晴らしいことだと思います。ありがとうございました。
- 地域とのつながりを大切にしながら、さらに専門教育を進めていただければと思います。
- 班活動が中途半端なので、活性化させてほしい。
- 農業の大切さを教えるとともに、地域の意担い手育成に尽力してください。